

# WWLコンソーシアム構築支援事業 令和元年度 実施状況



**東京都立南多摩中等教育学校**

**Tokyo Metropolitan Minamitama Secondary Education School**

# 文部科学省指定 WWLコンソーシアム構築支援事業

文部科学省WWLコンソーシアム構築支援事業

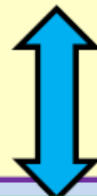
管理機関 **東京都教育委員会** Diverse Link Tokyo Edu (DLTE)

拠点校 **東京都立南多摩中等教育学校**

- ①文理融合及び探究学習を深めるカリキュラム開発
- ②高校生国際会議への参加
- ③本校独自の探究学習のテキスト作成
- ④CLIL（内容言語統合型学習）の実践

共同実施校  
東京都立白鷗高等学校  
附属中学校

事業連携校  
東京グローバル10 指定校等



海外教育省・在京海外機関等

グローバル企業・NPO等

海外大学・高校等

国内大学

スペシャルアドバイザー

# グローバル企業・ NPO等との連携

特別セミナー！

# Diverse Link Tokyo Edu

多角的・多面的な見方・様々な分野・事象の関連性

最新最新の最新情報をトップリーダーに学ぶ  
多角的なもの見方、様々な分野・事象の関連性

## 地球の裏側の出来事が、なぜ私たちに関係があるのか

令和元年7月7日(日) 10:00-12:00

講師 バークレイズ証券・バークレイズ銀行東京支店会長  
児玉哲哉氏



定員 50名程度(先着順) 参加費 無料  
会場 日比谷ホール(有明) 東京都港区有明2-1-1  
交通 有明駅(有明線)徒歩10分  
お問い合わせ 03-5561-1111

### 第1部：レクチャー

世界中の最新の情報/何が起きているのか/  
見えにくいところ/海外からの視点/最新  
の経済動向を学ぶ

### 第2部：Q&Aセッション

講師の質問だけでなく、観客の質問も  
チャットについて、広く質問することができます

講演：他の参加者の学びを共有

### ～本セミナーの特長～

- 講師に、直接質問できる機会が用意されています
- 講演質疑(質疑応答)を行う上でホワイトボードによるリアルタイムの情報共有が図られています
- 参加者の意見をシェアすることで、様々な見方に触れられます

東京卸教育委員会

会場：日比谷ホール(有明) 東京都港区有明2-1-1

# Diverse Link Tokyo Edu 特別セミナーに参加

7月7日



・バークレイズ証券・バークレイズ銀行東京支店会長  
児玉哲哉氏の講演。

「地球の裏側の出来事が、なぜ私たちに関係がある  
のか」

多角的なもの見方、様々な分野・事象の関連性について、  
事業連携校である日比谷高校等の生徒達と  
刺激的な意見交換。

# 企業との連携

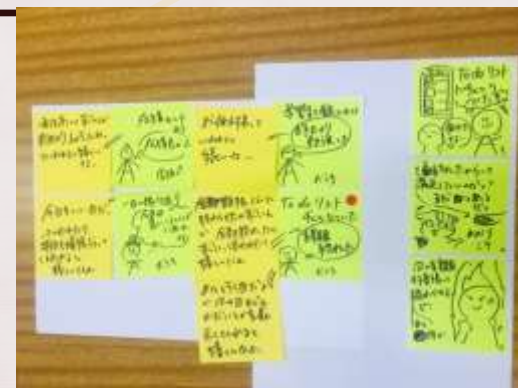
## ●企業とのPBL型ワークショップ

6月

### Classi社からの課題に生徒が応える



テーマ  
Classiを使う人がもっとうれしくなる  
キャラクターを考えよう



アイデアを出し、他者と討論をして、  
思考を深め、創造力が養われます

# 企業との連携

(株)富士通研究所の企業見学

(8月6日実施 22名参加)

(株)ヤクルト職員による講演会

(10月11日実施 91名参加)

(株)オリンパス企業訪問

(12月23日実施 32名参加)

# 企業との連携

(株)アドビ ワークショップ

(9月19日実施)

マイクロソフトのパワーポイントなどスライドプレゼンテーションの意義・重要性を学び、プレゼンテーションコンテンツ作成上の工夫など作成技術を修得して、プレゼンテーション能力を高める。

# 国内大学等との連携



# 東京大学 西成教授講演会

東京大学先端科学技術研究センターの西成活裕教授の講演会

テーマは「勉強から研究、そして開発へ」

5月8日



## ◆生徒の感想

- 文系・理系にとらわれず、様々な面から物事を考えられる人が求められている今、「自分にはこの分野は関係がない」とは言わずに、**分野横断的な思考体力人になりたい。**
- 私はすぐに諦めてしまうほうなので、「**ダメだと思って3か月**」という言葉がすごく印象に残りました。もうダメだと思っても、3か月は頑張ってみようと思いました。
- 最もインパクトが強かったことは、大学は「**多段思考に疲れを感じずに問題を解答出来ているか**」を見ているということでした。数学という無機質(とっていました)なものに対して、精神力を求める発想に驚きました。

# 國學院大學 田村教授 による「探究」活動視察

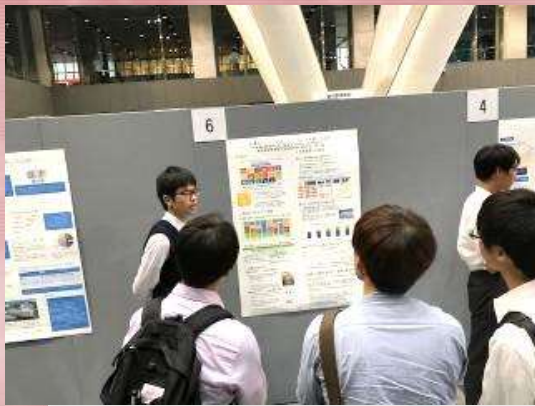
5月24日



田村教授は、ご自身が編集の書籍『「探究」を探究する』で、本校の探究活動を紹介。

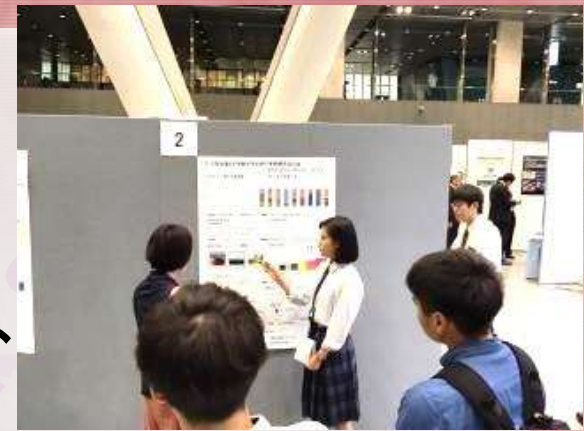
- WWLコンソーシアム構築支援事業は、「探究」が中心。
- 本校フィールドワーク推進室主任から「探究」学習についての説明。授業の様子やBYODの活用についても紹介。
- 田村教授からの示唆

本校の育成したい4つの力と新学習指導要領における基本の4つの力との関連性を持たせること、  
カリキュラム開発では大きな方向性を持って取り組むこと



# 首都大学東京 との連携

5月11日・25日、  
6月1日・4日



「脱炭素社会の実現に向けて

～水素エネルギーを考える」

「世界水素技術会議(WHTC)2019」の東京都特別プログラム。4年・5年生の各1名が学習の成果を発表。

法人・企業・東京都環境局などの方々が集まり、パネルディスカッションを実施。

多くの水素に関するブースがある一角で、本校生徒が水素エネルギーについてのポスターセッション。



# 首都大学東京との 高大連携論文指導

5年生の生徒6名が探究活動の指導を受講。

6月11日(火)日野キャンパス

12日(水)南大沢キャンパス

専門家からの探究活動をめぐる的確なアドバイス。

今後、この指導を生かし、探究活動をより前進。



# 大学との連携

・首都大学東京高大連携室 研究協議会(8月)

①首都大学東京アドミッションセンター長 玉野教授

勉強(学習を強制される)する生徒(生きる徒弟)から学問(自主的に学ぶ)する学生(学んで生きる存在)への転換が課題。

②高大連携室長 河西教授

生徒の主体的な学習習慣づくりを支援していきたい。

間違ふことを恐れぬ、本音が言えない学習環境ではなく、自らが能動的に学習に向かえるような態度を身につけることが大切。

・東京農工大学山田准教授の来校(情報交換)(7月8日)

# 東京外国語大学教職員との交流会

8月9日

## 協議内容

- (1)文系ゼミの運営について
- (2)文系テーマの論文指導について
- (3)異文化理解、言語教育の進め方について
- (4)高大接続の在り方について



論文作成について・・・大学生は100ページ、高校生は4000字と字数制限の違いはあるが、「良い問の発見」「データ資料の収集」「分析手法の工夫」の3点については共通点があるとの御指摘。成果物を完成させることは、論理的な思考の育成につながる。

学生・生徒の育成について・・・Society 5.0 の社会においては身近な問題を社会や世界という大きいスパンで考えることが大切。俯瞰したものの考え方、時間軸の捉え方を踏まえ、視野を広げる。

論文の評価方法について・・・大学ではプロセス評価も重視。

次回は、生徒を大学に連れて行き、直接御指導をいただくことを計画。

# OECD教育局分析官 の来校

6月5日



## 協議内容

経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査(PISA)担当アナリストである Tse Chi Sum 氏が、本校の探究学習を視察。

これからの探究学習では、方法論にフォーカスするのではなく、**学習観を知識伝達型から社会情動的スキル育成にどのように移行していくべきかが重要。**

本校が6年一貫教育の強みを最大限に生かして生徒同士や生徒と教員間の安定した関係を構築していることから「こうした新しい力を伸ばす素地が既にできあがっている」と評価。

# 外部機関との連携

7月12日

## ● 4年生「Cross the Border講演会」

講師はグローバル教育推進プロジェクト(GiFT)の辰野まどか氏。

17歳のスイスでの衝撃的な異文化体験から30歳でなりたい自分を考え、次々とそれらを実現し、現在は世界で活躍するようになった経緯を聞く。

生徒たちは2030年の自分をイメージし、それを相手に話すというペアワークを実施。

SDGsは自分たちから遠い問題、政治家や一部の  
人々だけが関係する問題でないことを、生徒が身近な  
問題とSDGsの17のゴールとを結びつけることで実感。





**文理融合及び  
探究学習を深める  
カリキュラム開発**

# カリキュラム・教材開発

- 文理融合と探究学習深化のためのカリキュラム
  - ①3年「データ分析」設置(家庭科1単位減)
  - ②4年「地球探究」(2単位)設置  
地理Aと地学の融合 糸魚川・野尻湖研修
  - ③4年「総合的な探究の時間」2単位へ増単  
名称を「Cross The Border」に変更
  - ④5年「MIE」(1単位)を設置・数学を英語で学ぶ
  - ⑤6年「Pensées」(1単位)の設置  
・現代的課題に答えを見出す
  - ⑥探究独自テキストの開発

# グローバル問題研究会 の発足

# グローバル問題研究会

- ①第15回青少年英語スピーチコンテスト(本選出場)
- ②起業創業ラボ 集中型 2名参加 1位入賞
- ③国際協力エッセイコンテスト4・5年生応募
- ④糸魚川・野尻湖研修ツアー(7月実施)
- ⑤Study Tour 長崎(7月実施)
- ⑥キッズウィットネスニュース日本  
オリンピックプログラム(7月実施)
- ⑦牛乳パックのストロー問題への取り組み

# グローバル問題研究会

- ①第15回青少年英語スピーチコンテスト(本選出場)
- ②起業創業ラボ 集中型 2名参加 1位入賞
- ③国際協力エッセイコンテスト4・5年生応募
- ④糸魚川・野尻湖研修ツアー(7月実施)
- ⑤Study Tour 長崎(7月実施)
- ⑥キッズウィットネスニュース日本  
オリンピックプログラム(7月実施)
- ⑦牛乳パックのストロー問題への取り組み

# 糸魚川・野尻湖研修

7月30日・31日



- 「校外宿泊研修(糸魚川・野尻湖)」。
- 地学的な現象と地理的な現象に関して、実際の現場に行き、実際に体感することにより、文理を融合したものの見方を養うとともに、地球を科学的に捉える。
- 後期課程の生徒4名が参加。

# Study Tour 長崎

7月30日・8月1日

4・5年生の生徒を対象として、古くから外国との交流の窓口であった長崎を訪問。

歴史・文化・外交・平和など、幅広いテーマに関心を持ち、変化の激しい社会で活躍できるリーダーの育成を目的とする。

10名の生徒が参加。





# キッズウィットネスニュース オリンピックプログラム

7月29日

## ● KWN特別ワークショップ ～ Sharing The Dream 2020 ～

グローバル問題研究会(GI研)のメンバーが、TOKYO2020オリンピック・パラリンピックに向けた映像作品づくりを進めるSharing The Dream 2020 (SD2020)に参加。

レバノンの走り幅跳び選手である Christel Saneh (クリステル サネ)さんが来校。ワークショップでは、アラビア語を教わる。交流会では、将棋の対局やレバノン共和国と日本の国旗をデザインした鶴の折り紙作りを実施。その後、サネさんとともに応援メッセージを撮影・収録。



# 新たな生徒の実績

## ★6年 女子生徒

少年少女国連大使育成事業(日本青年会議所)

7月28日から8月4日

スイス(ジュネーブ)、スウェーデン(マルメ)

## ★5年「世界津波の日」2019高校生サミットに 参加(9月 札幌)

本校の防災訓練について英語でプレゼン・ディス  
カッション(3名参加)

## ★2年 女子生徒

国立市青少年海外短期派遣事業

7月23日から7月29日までシンガポール

# CLILの試行 その他

# CLILの試行

## ● オーストラリア教員によるCLIL

(内容言語統合型学習)

4年生と3年生にCLILの授業を実施。

オーストラリア研修旅行を控えた4年生には地理の授業を行い、オーストラリアの豊かな自然や多様な生物について学ぶ。

3年生への授業は理科で、身近で興味深い実験に取り組む。

- ・4年生 地理 "Queensland Classroom STEM Experience"
- ・3年生 理科 "What is ELECTRICITY?"





## 外部機関との連携

- EUがあなたの学校にやってくる  
(11月7日実施)  
EUの外交官・職員が来校し、EUやEU加盟国について理解を深める講演を実施。  
(3・4・5年生対象)

# 生徒の意識調査

- 前期生・後期生を対象に択一式と記述式の調査を7月に実施

## ① 択一式

生徒の自己評価 グローバルな視点 リーダー性  
日本語コミュニケーション 英語コミュニケーション  
興味ある分野を調査

## ② 記述式

グローバル化 ダイバーシティ イノベーション  
将来のビジョン 英語への意識 を調査

# 生徒の意識調査(前期生)

## 前期生択一式

- ・相手を尊重するなどの資質・態度は肯定的
- ・グローバルな視点について、問題解決などの意欲は1年が高く、2・3年と低くなる
- ・リーダー性については肯定・否定に二分している
- ・コミュニケーションは英語の使用については苦手意識をもっている。
- ・興味関心のある分野

①文化歴史 ②医療福祉 ③ジェンダー

# 生徒の意識調査(後期生 \* 5年)

## 後期択一式

- ・相手を尊重するなどの資質・態度は肯定的
- ・グローバルな視点は、外国文化に接することには肯定的だが、海外留学には否定的、外国での職業選択は肯定・否定が二分している
- ・リーダー性は、自分の強みをいかしていることには肯定的だが、リーダーの役割・自主性は肯定・否定が二分している。
- ・コミュニケーションでは日本語では肯定的だが、英語では苦手意識が強い。
- ・興味関心のある分野
  - ①文化歴史 ②環境資源 ③人種 地域まちづくり

# 生徒の意識調査(後期生 \* 5年)

## 後期記述式(ワード分析 頻出ワード)

### ・グローバル

<名詞> 世界 文化 様々 世界中 人々 交流

<動詞> 繋がる いく 思う つながる もつ

<連節> 世界—つながる 距離—縮まる

規模—考える 文化—違う

つながり—広がる 交流—深める

世界—考える 世界中—つながる

人々—つながる 関わり—もつ



# 生徒の意識調査(後期生 \* 5年)

## ● ダイバーシティ

<名詞> 様々 尊重 考え 文化 社会 個性

<動詞> 認める 受け入れる できる 違う

<連節> 個性—認める 意見—取り入れる

選択肢—広がる 差別—なくなる

人々—受け入れる 意見—受け入れる

文化—認める 社会—受け入れる

—一緒—暮らす 人類—栄える

# 生徒の意識調査(後期生 \* 5年)

## ● イノベーション

<名詞> 新た 考え 物事 従来 社会 方向  
進化 改善 変化

<動詞> いく 変える 変わる できる 違う  
生まれる 取り払う

<文節> 方向一変える 世界一変わる  
ものごと一変える 考え一改める  
方向一変わる スペース一抜け出す  
リスク一負う 固定観念一打ち壊す

# Input

東京大学 東京外国語大学  
首都大学東京

大学

企業

Classi  
富士通研  
ヤクルト  
オリンパス  
アドビ

生徒  
探究活動

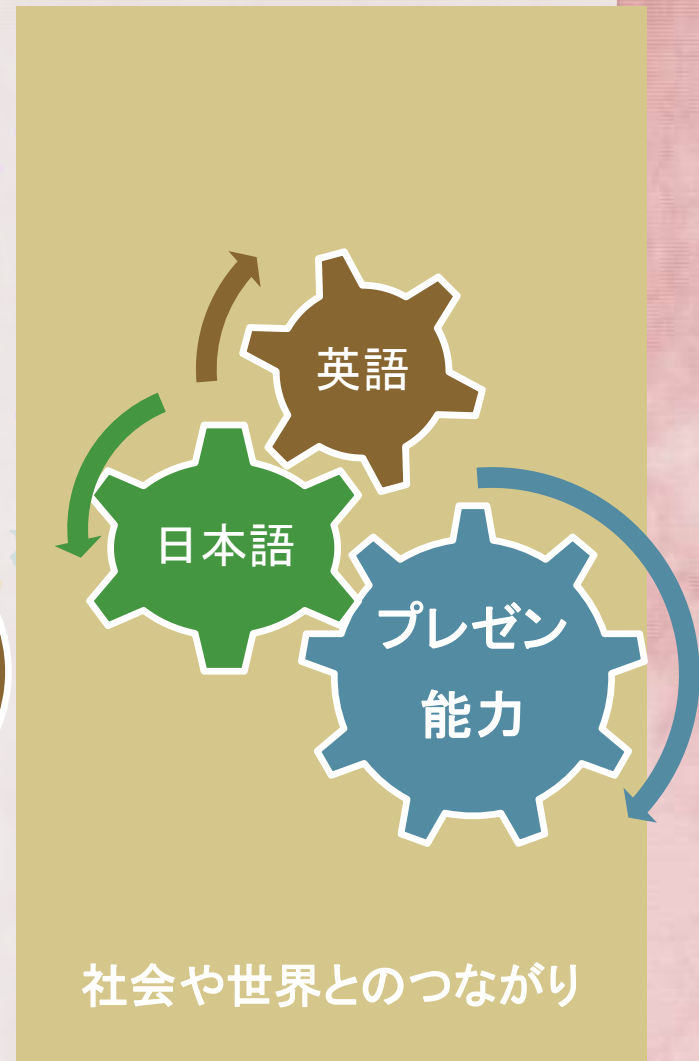
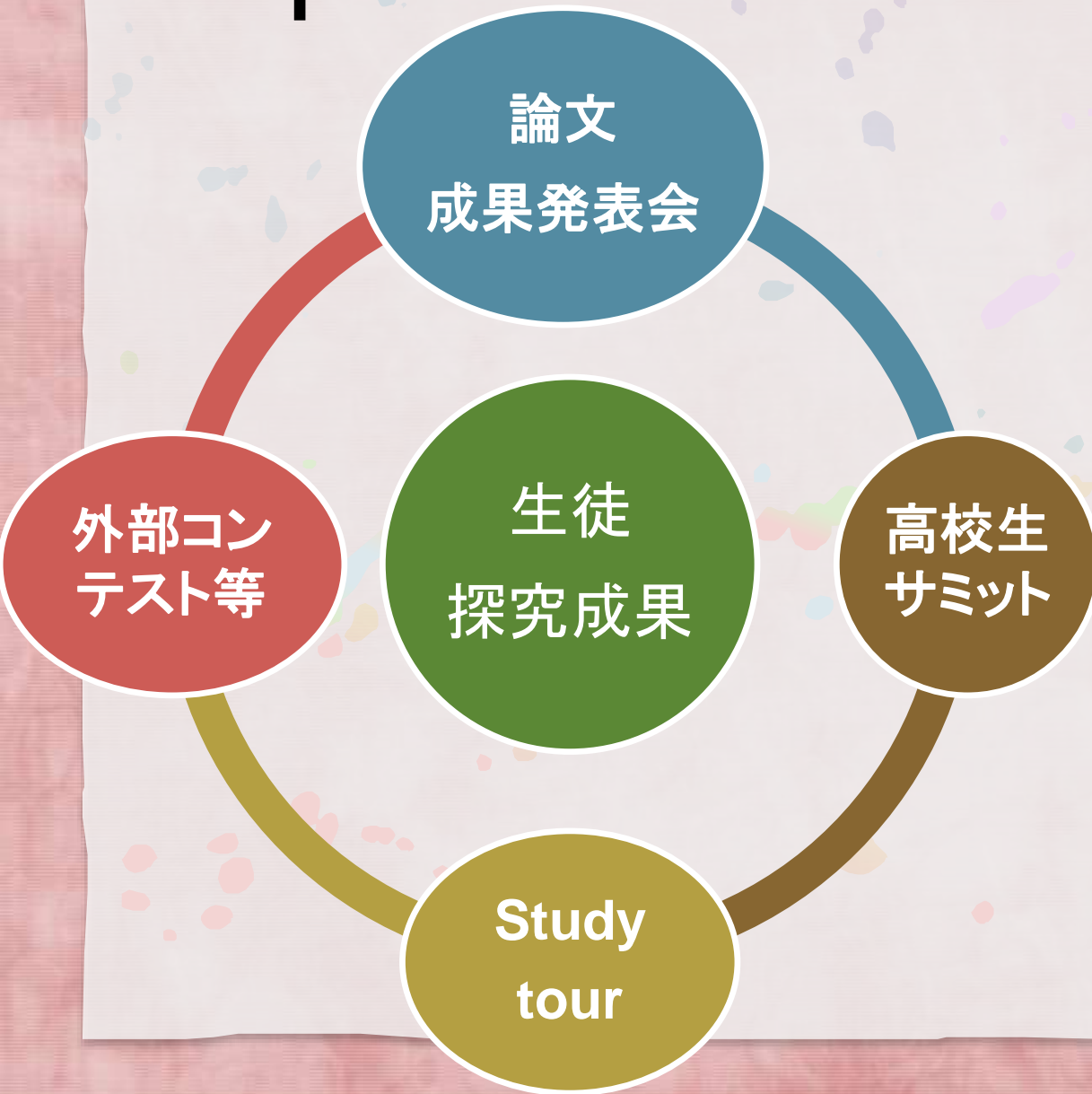
外部  
機関

GiFT  
OECD

Study  
tour

糸魚川・野尻湖  
長崎

# Output



# 今後の課題

①インプットからアウトプットへ

生徒の発信力(英語・日本語)を高める

\* 秋～冬は発表機会が増える

②「Cross the Border」型探究への深化

探究活動の工夫、生徒の視野をひろげ

関心分野を広げる・・・探究への種まき

③グローバルな視野

④生徒の変容の評価と事業の再構成

⑤本校教員での目線合わせと他校への発信

\* 高校間のコンソーシアム構築